



不登校児童生徒の現状について

① せらず ② ゆ っくり ③ み んなで ④ き っと ⑤ ず っと ⑥ つ な がる

学校福祉部 子ども支援課【あゆみ】 家庭支援課【きずな】

1 国の動向

(1) 不登校対策

文部科学省では、不登校対策として令和5年3月に「COCOLOプラン」を発表した。しかし、令和4年度には、全国で不登校児童生徒数が30万人になろうとしている状況を踏まえ、昨年10月には、「COCOLOプラン」を徹底するための緊急対策パッケージを発表している。

(2) COCOLOプランと焼津市の取組の概要

① 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える。



焼津市では、

- ・校内教育支援センターとして「心の教室」を設置
- ・教育支援センターとして「チャレンジ教室」をアトレ庁舎と大井川庁舎に設置
- ・多様な学びの場・居場所の確保のため「しいの木」などのフリースクールとの連携

② 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する。



焼津市では、

- ・不登校になる前の「チーム学校」による支援の研究として、市内4校を研究指定
- ・不登校の児童生徒や保護者への支援として「学校福祉部」が個別に支援

③ 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする。



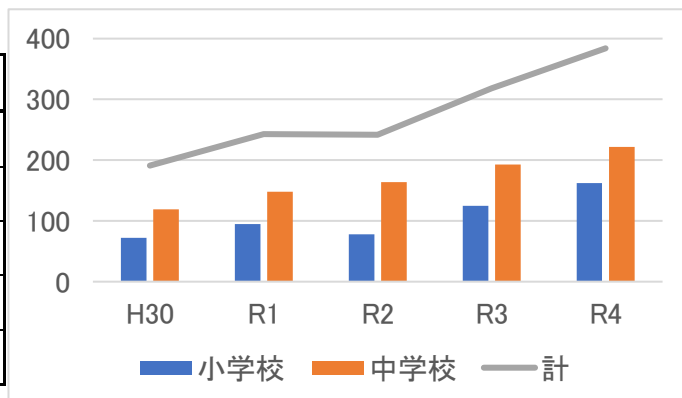
焼津市では、

- ・学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」の改善として、教育センターによる授業支援
- ・いじめ等の問題行動に対する毅然とした対応として、学校福祉部と学校の連携した取組
- ・快適で温かみのある学校環境整備として、教育総務課による校内環境整備

2 焼津市の不登校の現状

(1) 焼津市不登校児童生徒数推移

	小学校	中学校	計
H30	72	119	191
R1	95	148	243
R2	78	164	242
R3	125	193	318
R4	162	222	384



(2) 具体的な焼津市の取組

心の教室(校内教育支援センター)

- ・平成11年から国の委託事業で始まったが、平成16年度からは、焼津市単独事業として継続
- ・学校には登校できるが、教室に入りにくい児童生徒への支援
- ・相談員は、1日4時間の勤務だが、研究指定校は1日6時間の勤務

チャレンジ教室(教育支援センター)

- ・アトレ庁舎に焼津チャレンジ・大井川庁舎に大井川チャレンジ
- ・学校登校することが難しい児童生徒への支援
- ・どちらのチャレンジにも3名ずつの指導員を配置

学校福祉部による支援(子ども支援課・家庭支援課)

- ・チャレンジ教室にも通級できない児童生徒への支援
- ・経済的な問題などで福祉的支援を求めている家庭への支援
- ・学校やチャレンジ教室に行くことができるように支援

(3) チャレンジ教室の現状

チャレンジ教室通級人数

	焼津チャレンジ		大井川チャレンジ		合計
	小学生	中学生	小学生	中学生	
R2	8	20	9	17	54
R3	12	21	11	16	60
R4	9	36	10	11	66

チャレンジ教室通級率

	不登校児童生徒数	通級人数	通級率
R2	242	54	22.3%
R3	318	60	18.9%
R4	384	66	17.2%

3 成果と課題

こうした心の教室・チャレンジ教室・学校福祉部等での支援により、登校や関係機関につながる児童生徒や家庭が増えてきている。

しかし、不登校児童生徒は年々増加する傾向にあり、学校福祉部の対応で、改善が見られたケースについても、継続した支援、見守りがなければ、状態が安定しないという現状があることから、こうした支援を維持していくためには、家庭児童相談員の拡充・充実が急務であると考え。

また、不登校児童生徒の増加に対応し、さらに現在のチャレンジ教室にも通うことができいない不登校児童生徒が、通級しやすくするための、新たな学びの場として、社会性を身につける居場所の設置も検討していくことも考えられる。